

■ 全体講評

今回の公開模試 AP 午後は、受験者全体の出来栄を見る限り、問題の難易度は例年並みかやや易と見受けられます。今回の模試を力試しの良い機会と位置付けて、成績が芳しくなかったとしても点数にとらわれることなく、できなかったところを復習して理解を深めましょう。

AP 午後試験は、記述式の問題形式でテクノロジー系、ストラテジ系、マネジメント系、組込みシステム系の問題で構成される全 11 問のうち、5 問を選択解答する形式です。問 1 のセキュリティ分野の問題は必須ですので、残りの 10 問から 4 問を選択することになります。まず、この選択をいかに的確に行うかが突破には重要です。試験では自分が選択した問題番号を○印で採点者に示します。今回の模試では少なかったですが、自分が選択した問題に○を付け忘れている人、自分が解答した問題とは異なる箇所にも○を付けている人、問題番号の横の得点記入欄に○を付けている人がいました。このような解答要領違反は、解答の良し悪しの前に採点されないこともありますので、指示に従って確実に問題を選択してください。また、試験の途中で選択を変更した場合も忘れずに反映させるように留意してください。

AP 午後試験では、問題の分野が多岐にわたります。解答に際しては時間配分に注意が必要です。併せて、どの問題を選択するかは十分に対策を考えておかなければなりません。自分自身が普段従事している業務の特性や経験などから、アルゴリズムやデータベースを得意・苦手としている人がいます。また、ストラテジ系やマネジメント系を得意・苦手とする人もいます。選択する問題の分野を広く考えておいて、試験本番に問題を見てから選択問題を絞り込むことも戦略として有効です。実際、五つの問題に解答しておき、出来の良かった四つの問題を後で選択するような受験者も見受けられます。どの問題を選択するかが合否に大きく影響しますので、よく考えて問題選択を行うようにしましょう。そして、選ぶべき問題の分野はしっかりと学習するようにしましょう。特に知識の有無が問われる問題では、前提となる十分な知識量が頭に入っていなければ合格水準の得点を得ることは難しくなるでしょう。問題を選択する際、前に述べた選択問題の○の付け忘れや修正忘れが起りやすいので注意が必要です。

解答方法の全体的な注意点として、問題文や設問文をよく読むことが挙げられます。解答のヒントや解答が文中に書いてあることがありますし、解答表現の方向性を

示していることも多いので、それらの情報をしっかりと読み取ることで、設問意図を無視した独りよがりの解答をしないよう十分な注意が必要です。今回気になったのは「問われている内容に答えられていない」記述が散見された点です。例として「理由」を問われているのに問題点を解答したり、解決策を説明したりしてしているような記述解答が少なからずありました。また、自らの業務経験に引っ張られて設問要求に答えていない、逆に応用情報技術者にそぐわない表現（例えば、漢字で書くべきところをひらがなで解答する）を用いていないこともありました。

IT のバックグラウンドをもたない方の受験も増えており、ストラテジ・マネジメント系の問題を選択する傾向が高まっています。これらの系統の問題では、問題文の文脈に沿って解答根拠を把握した上で解答しなければならない傾向が強く、解答表現には細心の注意が必要です。テクノロジー系の問題ではキーワードをしっかりと押さえることが重要になります。なお、今回の模試でも誤字や脱字が多く見られました。各設問へのコメントでも記していますが、キーワードとなり得る語句を漢字で書ける、正しいカタカナや英語（つづり）で書けるように、知識のインプットとアウトプットの両方を意識して学習しましょう。

解答用紙への記入に当たっては、濃くはっきりとした字を心掛けましょう。乱雑に書きなぐったような字は採点者の印象が悪くなる可能性がありますし、正答であっても誤字と認識され減点される可能性もあります。例として記号や数字での解答に「ウ」と「ク」と「ケ」や、「1」と「7」など判断が付きにくい答案が毎回散見されます。また、ボールペンを用いた答案がありましたが、試験ではボールペンの使用は認められないため普段から鉛筆やシャープペンシルでの記述に慣れておきましょう。

今回の試験結果を糧とし、本試験までの残された日々を粘り強く、「絶対に合格する」という強い意志をもって進んでください。本番で自分の力を最大限発揮できることを期待しています。

<午後>

問 1 クラウドサービスの利用

【採点基準】

【設問 2】

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。ただし、接続元制限機能やサービス P の IP ア

ドレス許可について言及された解答は正解、あるいは部分点としました。

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。

【設問3】

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。アカウント情報の管理、SSO（シングルサインオン）、など情報を一元化することで作業を効率化させる旨の解答は正解としました。

その他は解答例どおり。

【講評】

クラウドサービスの設定や運用の不備を突く不正アクセスといったリスクを踏まえ、IT技術者はセキュリティの観点から適切なサービス利用を進めることが求められています。本問はSAMLやHTTPS通信における認証処理をはじめ、クラウドサービスの導入や運用管理における対策についての基本的な知識を問う設問でした。

設問1は全体的に高い正答率でした。クラウドサービスにおける利用者と事業者の責任範囲、また責任追跡性（Accountability）は頻出の内容です。間違えた方はしっかりと復習をしておいてください。設問2(2)では、下線③の2段落前にある記述を根拠として解答を用意できるかが得点の分かれ目となりました。設問3で利用者認証が効率的に行われる点も正答としましたが、「認承」という誤記が散見されました。

問2 製造業の小売店舗販売とインターネット通信販売の融合

【採点基準】

【設問1】

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。ただし「柔軟」や「迅速」という記述が抜けている解答は減点している場合があります。

【設問2】

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し各2点。「口コミ」や「SNS」による顧客拡大、そして顧客が来店し現地ではか得られない「体験」によって直営店の売上拡大につなげるような内容が含まれる解答も正解としました。

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し2点。季節や旬に基づく限定的な販売であることや希少性を訴求する内容の解答は正解としています。

【設問3】

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。課題が問われているのに対し、解決策を記述し

ている場合は減点、あるいは0点としている場合があります。

その他は解答例どおり。

【講評】

全体的に高い正答率でした。新型コロナウイルスを経て製造業が小売に乗り出したり、ネット販売を手掛けたりする事業再構築の事例は数多く生まれました。小売業というイメージしやすい身近な業種であったことから、通信販売とリアル店舗の違いをしっかりと考えればそれほど難しくなかったと思われます。企業が抱える課題を認識し、それに紐付いた取り組みを関連付けて考えられるようにしておくことが問2対策として有効です。この際、前述のように設問で問われているのが「問題点」なのか、「課題」なのか、「理由」なのか、「対策」なのかを明確にするようにしましょう。例えば、体重が増えているという「問題点」があるとすると、「課題」はダイエットすることです。その「理由」は食べすぎであり、「対策」はジムで運動する、といったように解答は書き分けられるはずで

問3 空き領域の管理

【採点基準】

原則として解答例どおり。

【講評】

セルを1列に連続して並べた領域に対して、割り当てと解放の処理を行うアルゴリズムからの出題でした。全体としての正答率は低くありませんでしたが、設問3のシ、ス、セの正答率は低かったです。

採点で気になった誤答は設問2、ケです。「より大きい」の正答に対し「以上」との解答が散見されました。その値を含む場合は「以上・以下」、その値を含まない場合は「より大きい、より小さい」という基本的な違いを理解しておきましょう。また細かい点ですが、アルファベットで解答する場合の大文字小文字の区別もしっかりと行って解答するようにしましょう。その他詳細については解答・解説を参照してください。

問4 イベント管理システムへの追加開発

【採点基準】

【設問1】

(3) f、gについて、解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し各2点。

【設問2】

(2) 設計変更した判定条件に関し、解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。ただし、最終更

新日時と当選メール送信日時のいずれかが欠けた解答については部分点とした。いずれにも言及されていない解答は0点。

その他は解答例どおり。

【講評】

本問は、イベント管理システムの追加開発を題材として、要件の正しい理解、そして機能やデータの設計能力、設計変更を行う能力について問うものでした。

【設問 1】

(2) 完答ということもあり正答率は高くありませんでした。

(3) 全体的に正答率は高かったです。

【設問 2】

(2) 追加した属性として当選メール送信「フラグ」という解答が目立ちました。文中のF部長の指摘として「いつ送信したかが分かるようにしておくこと」とあることから日時を属性として追加する、という解答を導き出したところでした。また、判定条件として最終更新日時についての条件が漏れ、部分点となった解答が散見されました。今回は部分点としましたが、本試験では0点となる可能性もあるので慎重に解答を導き出したところでした。

問 5 無線 LAN の再構築

【採点基準】

【設問 2】

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。

【設問 3】

(1), (3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対しそれぞれ4, 3点。

その他は解答例どおり。

【講評】

ネットワークに関し、最新の無線LAN(Wi-Fi6)やLANケーブルの種類(カテゴリ)、VLANとESSIDとの対応を問う問題でした。無線LANや物理層を苦手とする受験生は多いですが、現在のネットワークインフラとして不可欠な位置を占めており、今回の取り組みをきっかけに特徴を理解してほしい、との主旨からの出題です。

【設問 2】

高い正答率でした。旧型PCでも使用できる点、Wi-Fi5との違いの点からの記述があれば原則として4点と採点しています。

【設問 3】

(1)こちら正答率は高かったです。2.4GHzと5GHzの

違いを踏まえた目的が記述できていました。

(2) カテゴリ 6, との解答が散見されました。新無線システムにおけるケーブル長を踏まえ、6A との解答を導き出したところでした。

(3) 費用(あるいはコスト)が抑えられる点についての記述があれば原則として3点としました。ただし、なぜ費用を抑えられるのかについても解答枠の関係から記述しておきたいところでした。

【設問 4】

いずれも正答率は高かったです。アルファベットのスペルを間違わないように気を付けましょう。

問 6 営業支援システムの設計

【採点基準】

【設問 2】

(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。

【設問 3】

(1) 正答に対し3点。ただし、誤りの個数が二つ以下までの場合1~2点の部分点を付けている場合がある。その他は解答例どおり。

【講評】

問6は営業支援データベース設計に関する出題でした。E-R図の穴埋め、GRANT文によるアクセス権限の設定、ビューの更新条件などがテーマでした。スペルミスや誤記などのケアレスミスがほぼ見られなかったため、全体的に出題内容の理解度がそのまま得点に反映されているとみられます。

設問1のように、解答を図線で求められる場合と語句で求められる場合があります。例年、「1対多」のように語句で解答する例が多く見られます。今回も「凡例及び注記に倣うこと」との指定が設問にあるため、問題文をよく読んで解答するように心掛けましょう。

設問2(3)では、JIS X 3005に準拠したビュー表の更新に関し、ビュー表と実表の1対1の関係性について解答が求められています。この内容を含むとみられる内容であれば部分点を与えている場合があります。

問 7 デバッグ用カメラシステム

【採点基準】

【設問 1】

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。「ライン数が多い」、「処理範囲が広い」など同様の主旨の解答も正解とする。

【設問 2】

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対

し3点。

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。「レジスタ2の値変更」や「シャッタースピードを変更する」いずれかの記載にとどまった解答は原則として部分点とした。

【設問3】

(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。「シャッタースピードの意図しない設定値変更」は部分点とした。また「シャッタースピードが無効」もしくは「偶数回」のいずれかだけが記載されている場合も原則として部分点とした。その他は解答例どおり。

【講評】

デバッグ用のカメラシステムに関し、デジタルフィルター処理やフリッカー現象、レジスタ値からの出題でした。スマートフォンカメラの高性能化により、組込み／ハードウェア側で画像を処理するアーキテクチャを採用するケースが今後増えるでしょう。他の問題と比較して正答率は低い印象です。

設問1(1)はデジタルフィルターのうち、よく用いられるローパスフィルターの機能についての設問であり、比較的高い正答率でした。(2)も同様に多くの方が解答できていました。

設問2(2)については不正解の解答が少なかった反面、「レジスタ2の値を変更」、「シャッタースピードを変更する」のどちらかについてだけ言及した解答が多かったです。指定された解答文字数を考慮の上で、どの範囲まで解答に含めるかの見極めが必要であった設問でした。

設問3(2)では、シャッタースピードが無効な点については多くの方が言及されていたものの、偶数回についてまで言及された解答はわずかであり、部分点にとどまった解答が大半となりました。

問8 システム間のデータ連携方式

【採点基準】

【設問4】

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

【設問5】

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。

その他は解答例どおり。

【講評】

システム間のデータ連携方式をテーマとした出題であり、過去にも取り上げられたことがあり、実務上でも

扱う機会の多い内容であったことから比較的取り組みやすい内容であったと思われます。

設問1、設問3の穴埋めはやや専門的な知識が必要となるものの、落ち着いて正解を選び得点源としたいところ です。

設問2は計算問題で苦手とする方もいますが、本設問では難しい内容ではないため、こちらも得点源としたいところ です。

設問4は高い正答率でした。リソースを共有できる主旨が記述されていれば正当としています。一方で、リソースを共有した結果として得られる「業務の効率化」、「手間の削減」についての解答も見られましたが、これらは内容に飛躍が見られるため原則として不正解としました。

設問5(1)では「即時性」に類する記述があれば原則として正解としています。(2)の穴埋めは正答率が高かったです。

問9 自動二輪販売・修理業の社内システム構築

【採点基準】

【設問1】

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し各3点。

【設問2】

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し各3点。

【設問4】

(1) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し3点。

(2) 理由：解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し4点。

その他は解答例どおり。

【講評】

なじみの薄い業界をテーマとした出題ですが、実際はインターフェースを重視したシステム再構築の内容でした。問題文中のヒントを的確に拾って解答していけるかどうか得点のカギとなりました。

設問1の選択問題は、全体的に高い正答率でした。

設問2については「新たな人材育成」に類する解答は大半の方が記述できていました。一方で、「プロジェクトの成功を確実にする」観点からの正解が多くなく、「知識をもった人材」、「経験者」といった観点からの解答が目立ちました。[U社の現状]に経営層からの指示が明示されており、この内容を自身の先入観や経験を捨てて抜き出せたかが得点の分かれ目となりました。

設問3の題材であるタックマンモデルはチームビル

ディングにおける基本的な考え方でもあるため、未習の方はこれを機会に知識を深めておいてください。

設問 4 は正答率が高めでした。設問の状況から「イ」を選択することは難しくなく、その対策として高スキルのリソース確保の必要性を導き出すこともできていました。一方で、ここでは理由の記述が求められていますが、対策を記述している解答もありました。「高スキルの人材を充てて経験不足を補う」といった内容です。この設問は理由を問うているため、自身の経験などから設問主旨を誤解することのないように、慎重に問題文を読むように心掛けましょう。

問 10 サービスレベル管理

【採点基準】

[設問 1]

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

[設問 3]

(1),(2) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対しそれぞれ 2, 4 点。

[設問 4]

(2),(3) 解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対しそれぞれ 3, 2 点。

その他は解答例どおり。

【講評】

各システムのハードウェア老朽化への対策として、ハードウェアの更新に加えてクラウドサービスの利用も視野に入れる、という企業の状況に関する出題でした。

設問 1 ではバックアップシステムが RAID5 (活性挿抜) である点を本文中から読み取り解答したいところです。また、本文中にはバックアップを行う時間帯についても記述があり、稼働時間内での停止時間が 0 分であった理由として稼働時間外での停止であった旨の解答もあり、今回はこれについても正答あるいは部分点として採点している場合があります。

設問 3(1)では、「バックアップに時間がかかっている」との本文中の記述から「バックアップ時間を減らすため」との解答が多く見られましたが、これは理由というよりは回線スピード強化の「目的」であるといえます。従って、回線スピードの強化が必要になる理由としては回線利用頻度が高まる、といった解答が必要となります。設問 3(2)は比較的高い正答率でした。クラウドサービスの可用性の観点から、ネット回線が停止した場合に想定されるリスクを考えれば正答を導き出すことは難しくありません。

設問 4 も正答率が高めでした。(1)の「しきい値」は聞

きなれていない語句であったとしても本文中にも登場しているため、拾い出せた方も多かったかと思えます。(2)もクラウドサービスを用いることによるコスト削減効果に関する内容であり、比較的高い正答率でした。(3)については、本文中に SLA 導入前の従業員の状況について記載があり、こちらも正答に至ることはそれほど難しくなかったと思われます。モチベーションの向上や適切な評価に関する解答を正答としています。ただし、SLA の導入にだけ焦点を当てた解答は減点や不正解としている場合があります。

問 11 システム再構築に向けた企画段階の監査

【採点基準】

[設問 2]

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

[設問 5]

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

[設問 7]

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

[設問 8]

解答例同様の主旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。

その他は解答例どおり。

【講評】

ハウスメーカーを題材としてシステム再構築に向けた企画段階での監査の出題でした。基本計画の検討から経営会議に付議する流れの中で、機能要件の見直し、DX 対応などがポイントとなっています。

設問 1 の選択肢に登場する語句はいずれもビジネスシーンでよく用いられるものです。正誤の結果にとらわれず、いずれもこの機会に意味を理解しておくようにしましょう。

設問 2 から設問 4 までは高い正答率でした。いずれも本文を注意深く読み進めていけば正答にたどり着くことは難しくありません。

設問 5 では、本文中に登場する「全体最適」という語句を用いた解答が多くはありませんでした。それでも「全利用部門」や「全社的」といった類する語句を用いた解答についても原則として正解としています。

設問 8 については、対応状況の進捗や課題を確認する、という主旨の解答が多く見られました。しかし、解答・解説にあるように、注意深く文章や表を見て全て“実施済”でなかった場合の対応が抜けている点に着目し、対

応中の課題についての取り扱いを解答として絞り込むことが求められます。

以上

itec